



しずおかの環境

～ 令和5年版環境白書(概要版)～



静岡県

〈表紙〉

令和5年度静岡県さくら写真コンクール「富士山と桜」部門準特選
「山里の春」

撮影場所：富士宮市半野

撮影年月日：令和5年3月16日

この環境白書は静岡県環境基本条例第8条に基づき、環境の保全及び創造に関する施策の実施状況等を明らかにするため、毎年発行しており、主に令和4年度の取組等をまとめたものです。

令和5年版環境白書 目次

トピックス

脱炭素社会の構築	1
循環型社会の構築	3
良好な生活環境の確保	4
自然共生社会の構築	5
環境と調和した社会の基盤づくり	7

第1章 静岡県環境の現状と施策の実施状況

第1節 脱炭素社会の構築	9
第2節 循環型社会の構築	11
第3節 良好な生活環境の確保	13
第4節 自然共生社会の構築	15
第5節 環境と調和した社会の基盤づくり	17

第2章 静岡県環境基本計画の進捗状況

1 静岡県環境基本計画の進捗状況の評価	19
---------------------	----

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



SDGs (Sustainable Development Goals) とは

「誰一人取り残さない」社会の実現を目指す、国際社会全体の開発目標です。環境・経済・社会をめぐる課題について、17のゴールと169のターゲットが示されています。

SDGs の 17 のゴール

目標 1 (貧困)	地球上のあらゆる形の貧困をなくそう。
目標 2 (飢餓)	飢えをなくし、誰もが栄養のある食糧を十分に手に入れられるよう地球の環境を守り続けながら農業を進めよう。
目標 3 (保健)	誰もが健康で幸せな生活を送れるようにしよう。
目標 4 (教育)	誰もが公平に、良い教育を受けられるように、また一生に渡って学習できる機会を広めよう。
目標 5 (ジェンダー)	男女平等を実現し、全ての女性と女の子の能力を伸ばし可能性を広げよう。
目標 6 (水・衛生)	誰もが安全な水とトイレを利用できるようにし、自分たちでずっと管理していけるようにしよう。
目標 7 (エネルギー)	全ての人々が、安くて安全で現代的なエネルギーをずっと利用できるようにしよう。
目標 8 (経済成長と雇用)	みんなの生活を良くする安定した経済成長を進め、誰もが人間らしく生産的な仕事ができる社会を作ろう。
目標 9 (インフラ、イノベーション)	災害に強いインフラを整え、新しい技術を開発し、みんなに役立つ安定した産業化を進めよう。
目標 10 (不平等)	世界中から不平等を減らそう。
目標 11 (持続可能な都市)	誰もがずっと安全に暮らせて災害にも強いまちを作ろう。
目標 12 (持続可能な生産と消費)	生産者も消費者も、地球の環境と人々の健康を守れるよう、責任ある行動をとろう。
目標 13 (気候変動)	気候変動から地球を守るために、今すぐ行動を起こそう。
目標 14 (海洋資源)	海の資源を守り、大切に使おう。
目標 15 (陸上資源)	陸の豊かさを守り、砂漠化を防いで多様な生物が生きられるように大切に使おう。
目標 16 (平和)	平和で誰もが受け入れられ、全ての人々が法や制度で守られる社会を作ろう。
目標 17 (実施手段)	世界の全ての人々がみんな協力し合い、これらの目標を達成しよう。

出典：公益財団法人日本ユニセフ協会



COOL CHOICE 2022 in しずおか



令和4年11月19日、40を超える企業、団体などが連携し、「静岡電車・バス」の無料化をきっかけに、市内の賑わい創出と、ゼロカーボンにつながるアクションや県民が環境について考えることを目的とした環境関連イベント「COOL CHOICE 2022 in しずおか」が、静岡鉄道（株）等の主催で開催されました。

静岡県や静岡市もイベントの趣旨を踏まえ、イベントに参画しました。

静岡県は、環境啓発動画の放映やプラごみ削減に関するクイズラリー、環境サークルの大学生と連携した環境学習イベント等を実施しました。

静岡市は、静岡鉄道（株）と連携のもと、高校生・大学生による脱炭素社会の実現に向けた提案発表会「ゼロカーボン提案発表会 ～静岡市の未来を切り開け～」を開催し、学生が、自分たちで考えた様々な取組を市長などに提案しました。



大学生企画の環境イベントの様子



ゼロカーボン提案発表会

熱海ガス株式会社と「ゼロカーボンシティの実現に向けての連携協定」を締結



令和4年11月14日、熱海市は熱海ガス（株）と「ゼロカーボンシティの実現に向けての連携協定」を締結しました。

この協定は、熱海市と熱海ガス（株）が相互に連携し、それぞれが持つ脱炭素社会に関する知見や技術を活用した取組を推進することにより、脱炭素に関する情報を市内外に幅広く発信するだけでなく、市民に地球温暖化の防止に対する関心や意識を高めていただき、ゼロカーボンシティの実現に寄与することを目的に締結されました。



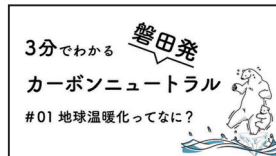
協定締結式の様子



環境学習と動画でゼロカーボンシティ実現に向けて啓発



動画はこちらから視聴できます→



動画のタイトル

磐田市では、次代を担う子どもたちの地球温暖化問題に関する理解促進を目的とした、環境学習「いわたゼロカーボンシティチャレンジ事業」を市内の中学校3校で実施しました。

受講した中学生から寄せられた2050年の将来像や実践できることについての意見は、環境基本計画や啓発動画に反映しました。

啓発動画シリーズ「磐田発！3分でわかるカーボンニュートラル」は、市公式YouTubeチャンネルでの公開や学習教材として市内の小中学校へ提供しました。



授業の様子



「清水港カーボンニュートラルポート（CNP）形成計画」を発表



令和3年11月、官民連携した36者からなる「清水港カーボンニュートラルポート協議会」を国と県の共同事務局で設立し、「クリーンエネルギーでつながる、地域の未来を支えるスマートガーデンポート※」を共通目標とした「清水港カーボンニュートラルポート（CNP）形成計画」を令和5年3月に策定し、公表しました。

今後、「世界に誇る、選ばれるスマートガーデンポート」として、官民一丸となって、CNP形成に向けた取組を実践し競争力のある港を目指すとともに、持続可能な脱炭素社会の実現に貢献してまいります。

※スマートガーデンポート：令和元年8月に策定公表した清水港長期構想（目標年：2040年）の基本理念



清水港CNP形成イメージ図（2050年）



清水港CNP協議会 開催実施

地球温暖化対策アプリ「クルポ」がリニューアル！ 「NIKKEI 脱炭素アワード 2022」を受賞しました



温暖化対策アプリ「クルポ」では、環境に優しい取組に応じてポイントが貯まり、景品が当たる抽選に参加できます。令和5年2月、クルポはユーザーや県内大学生の意見を取り入れて大幅にリニューアルし、より楽しく使いやすいアプリへと生まれ変わりました。

地域の様々な主体と連携し、多様なアクションを展開するクルポの取組は広く評価され、(株)日本経済新聞社が主催する「NIKKEI 脱炭素アワード2022」において、プロジェクト部門の大賞を受賞しました。脱炭素ライフスタイルへの行動変容に向け、今後もクルポの更なる普及を図っていきます。



見やすい画面でわかりやすい！毎日続けられる仕組みやゲーム性のある機能が充実！
「クルポ」リニューアルのポイント



NIKKEI 脱炭素アワード授賞式

静岡市が第1回脱炭素先行地域に選定



脱炭素先行地域は、民生部門の電力消費に伴うCO2排出量を実質ゼロにするとともに、地域脱炭素の実現を広めていくためのモデル地域として位置づけられています。

静岡市の脱炭素先行地域は、「脱炭素を通じて新たな価値と賑わいを生む『みなとまち しみず』からはじまるリノベーション」をテーマとし、清水駅東口エリア、日の出エリア、恩田原・片山エリアの3エリアで、民間企業と連携を図りながら実現に向けた取組を進めていきます。



整備が進む恩田原・片山エリア



出野副知事が韓国で本県の海洋環境保全の取組を発表



世界協力の呼びかけ



プレゼンテーションの様子

令和4年8月4日、本県と友好協定を締結している韓国忠清南道からの招聘により、道が主催する国際フォーラム「環黄海フォーラム」の特別セッションに出野副知事が登壇しました。

海洋産業の振興と海洋環境の保全に取り組む「マリンオープンイノベーション (MaOI) プロジェクト」及び県民一人ひとりに海洋プラスチックごみの発生を防ぐ行動を呼びかける「海洋プラスチックごみ防止6R県民運動」の取組を紹介するとともに、「美しく、豊かな海を次世代に引き継ぐため、世界中の自治体、住民が連携して取り組むこと」を呼びかけ、出席者から賛同を得ました。

いつでもだれでもチャレンジできる食品ロス削減を啓発



小中学生を対象とした出前講座



食品ロス削減キャンペーン

県では、廃棄物の削減や限りある資源を有効活用する観点から、家庭や外食店での食品ロス削減の啓発に取り組んでいます。

令和4年度は、6つの小・中学校で食品ロスの現状や課題を伝える出前講座を実施し、家庭の食事や給食での食べきりを呼び掛けました。

また、SNSで食品ロス削減の取組を投稿・情報発信する「ふじのくに教えて食品ロス削減投稿キャンペーン」を実施し、普段の生活の中で食品ロスにつながるアイデアを、多くの方から投稿いただきました。

食品ロスは、県民の皆さんが日常的に接する「食」に関わる問題であり、日々の生活において削減につながる行動をしてもらえるよう、今後も啓発を続けていきます。

「森・里・川・海のつながり学習会」の開催と環境学習ポータルサイト「ふじのくに環境ラボ」の開設で環境学習を推進！



「ふじのくに環境ラボ」サイト画面



学習会「畑の土壌生物の観察」

「森は海の恋人」水の循環研究会は、森里から川を通じ、海に流れる栄養が、海の生物生産に寄与していることを明らかにしました。

これを踏まえ、県では、親子を対象に、環境保全の大切さを考えるきっかけを提供する「森・里・川・海のつながり学習会」を開催しています。

令和4年度は、狩野川流域の「森」「里」「川」「海」の4会場で、実験や観察を通じて、各フィールドの役割を学びました。

また、令和5年3月に、環境学習ポータルサイト「ふじのくに環境ラボ」を開設しました。このサイトでは、5つの分野（地球温暖化、自然共生、資源循環、水循環、大気・水質）別に、動画やクイズ等で、子ども達が楽しく環境について学ぶことができます。



「ふじのくに環境ラボ」↑



静岡県水道広域化推進プランの策定 ～水道水の安定供給に向けて～



静岡県では、市町等の実施する水道事業が将来も安定した経営を確保していくため、県内を5つの圏域に分け、市町の区域を超えた広域化の推進方針を定めた「静岡県水道広域化推進プラン」を、令和5年3月に策定しました。

現在、プランに定めた推進方針に基づき、圏域ごとに、「危機管理対策」「営業業務やシステム等の共同発注」「資材や薬品等の共同調達」などの項目について、市町等の水道事業体と広域化実現に向けた検討を行っているところです。

将来にわたり安心・安全な水道水を供給できるよう、今後も、水道事業の広域化を推進していきます。



圏域図



静岡県水道広域連携全体会議

田子の浦港の汚染底質の除去完了



田子の浦港において、港内に環境基準を超過する汚染底質が堆積していることが確認されたことから、県では、平成15年度から汚染底質の浄化対策を実施してきました。

汚染底質の除去に当たっては、安全かつ的確に実施することが求められることから、学識経験者からなる「田子の浦港底質（ダイオキシン類）浄化対策検討委員会」を設けて策定した「田子の浦港底質（ダイオキシン類）浄化対策事業計画」に基づき、浄化対策を進めてきましたが、令和5年3月17日に開催された委員会において、田子の浦港内の汚染底質の除去がすべて完了したことが確認されました。

今後も引き続き、ダイオキシン類管理とモニタリングを適正に実施していきます。



汚染底質の除去（浚渫）作業



委員会開催状況



県立掛川西高校が第56回全国野生生物保護活動発表大会文部科学大臣賞



静岡県立掛川西高等学校では、桶ヶ谷沼に生息している希少種ベッコウトンボの生息域の特定や保護活動に取り組んできました。

自然科学部では、水中からのベッコウトンボの代謝産物を得ることで、生息域の特定を目指しました。

また、ベッコウトンボを羽化させるため、市民団体と協力し、保護活動にも取り組みました。産卵場所を確保するため、抽水植物や羽化が確認された場所でのオオフサモなどの外来種を取り除く作業などを実施しました。

これらの活動を自然科学部がまとめ、「希少種ベッコウトンボの生息域の特定を目指して」と題して発表し、第56回全国野生生物保護活動発表大会において、文部科学大臣賞を受賞しました。



文部科学大臣賞受賞



市民団体と協力した保護活動

デジタル技術を活用した効果的なニホンジカ捕獲活動



県では、伊東市岡・鎌田地区において、ドローンの画像からAI(人工知能)で解析して作成した「生息分布図」を基に、捕獲従事者がリアルタイムでわなを設置することで、ニホンジカを効果的に捕獲する実証試験に取り組みました。



ドローンを飛ばし、ニホンジカの生息状況を撮影



画像をAIで解析した「生息分布図」(数字はニホンジカの頭数)

田方猟友会の会員が捕獲活動に従事したところ、44頭のニホンジカを捕獲しました。仕掛けたわなにニホンジカが掛かった割合(捕獲効率)は、県の平均と比較して、約1.6倍に向上しました。

取組の結果、ドローンの活用がわな猟にとって効果的であることがわかりました。

どんなカメが暮らしている？ 萩間川カメ調査イベントを開催



牧之原市は、外来種問題・対策の普及啓発を目的に、令和4年10月1日、淡水カメの捕獲調査イベントを開催しました。

捕獲調査体験では、参加者が罟を引き上げ、捕獲されたカメがどのような種なのかを見て、触れて調査しました。

講演では、捕獲されたミシシippアカミミガメが外来種であること、外来種は身近に生息し、生態系への悪影響を及ぼすものもいることなどを説明し、被害を予防するための【入れない・捨てない・拡げない】を呼びかけました。



川でカメの捕獲体験



カメの解説をする有識者と熱心に聴く市民



南アルプスみらい財団の設立と南アルプス魅力発信・環境学習サイトの開設



南アルプスは、ユネスコエコパークに登録され、氷河期由来の動植物が息づき、地球のダイナミズムを目の当たりにできるなど、数え切れない魅力的な自然環境を有する『知られざる世界の宝』です。

県では、南アルプスを訪れる人々を増やししながら自然環境の保全活動の拡充を図り、南アルプスの貴重な自然環境をより良い形で未来に引き継ぐ事業を実施するため、令和4年7月19日に（一財）南アルプスみらい財団を設立しました。

また、多くの子ども達が、「南アルプス」が持つ魅力の本質に触れ、楽しみ、学び、理解を深めるため、教育機関の授業などで活用可能な魅力発信・環境学習サイト「南アルプスの宝箱（たからばこ）」を令和5年3月に開設しました。



南アルプスみらい財団の自然保護活動
（高山植物調査）



「南アルプスの宝箱」サイト

ロボット芝刈機で芝生の管理をもっとラクにしませんか



県では、私たちの生活に美しい空間を創出し、自然教育やスポーツ振興に有益な芝生地を拡大する取組の一環として、園庭・校庭の芝生化を進めています。

令和4年度に、芝生の維持管理作業の軽減が期待されるロボット芝刈機を県内3箇所です試験導入し、その効果を検証しました。

芝刈りにかかる作業時間が短縮されたほか、従来のエンジン式に比べて騒音が小さく、地域住民等から好評価を得ました。一方で刈りムラを発生させないように、稼働時間をしっかり確保すること等、運用上の留意点が明らかになりました。

令和5年度から（公財）静岡県グリーンバンクを通じて導入に対する助成制度を設け、県下へ普及を進めていきます。



HONDAロボット芝刈機
「Mi mo」（ミーモ）



ロボット芝刈機見学会（掛川西高校）



「静岡県SDGsビジネスアワード」が「第2回地方創生SDGs金融表彰」を受賞！



アワードイメージ

環境課題の解決に貢献する事業アイデアを幅広く募集し表彰する「静岡県SDGsビジネスアワード」の取組が、内閣府主催「第2回地方創生SDGs金融表彰」（令和4年度）を受賞しました。

同表彰は、SDGsを原動力とし地方創生に取り組む地域事業者を支援する地方公共団体等と地域金融機関等の連携事例を表彰するものであり、県内の金融機関や経済団体等との官民連携体制を構築しながら、環境ビジネスの振興やESG金融の活用促進に向けた施策を実施している点などが評価を受けました。

また、本アワードは令和4年度8団体を採択し、光触媒を用いて農産物の鮮度を保持し腐敗を防ぐ装置を開発した（株）浜松パルス（浜松市）が県知事賞を受賞しました。



表彰式での記念写真

プラス・エシカルマルシェの開催



県では、消費者市民社会実現のため、人や社会、環境に配慮した消費行動であるエシカル消費の普及・啓発に取り組んでいます。

令和4年度は、12月に静岡パルコ（静岡市）において、「プラス・エシカルマルシェ」を開催し、県内事業者によるエシカルに配慮した商品の販売やワークショップ、パネル展示を行いました。

併せて、県のエシカル消費啓発サイト「プラス・エシカル」やSNSを活用したり、リーフレットを作成、配布したりすることで、県民に広くエシカル消費実践の働き掛けを行いました。



マルシェの様子



マルシェのポスター

環境問題を体験！清水町環境展を開催



清水町ではSDGs（環境問題）を楽しく「知り」、「体験する」ことから「行動する」ことへの変換をテーマに、「清水町環境展」を開催しました。環境展ではeco実験パフォーマーのらんま先生による体験型講演会をはじめ、企業等と連携したエコ体験ブースの出展、燃料電池自動車（FCV）の体験を実施しました。子ども達がSDGsについて体験しながら考えることで、環境問題を身近な問題として捉え、自ら行動することが重要であることを学ぶ機会となり、町で行っている小学生を対象にした環境教育の理解を深めることができました。



エコ実験パフォーマンス



エコ体験ブース



「静岡県SDGsスクールアワード」初開催！



子ども達が、持続可能な社会の創り手となり、県内にSDGsの理念を広く根付かせることができるよう、令和4年度、新たに「静岡SDGsスクールアワード2022」を開催し、優れた取組を表彰しました。

受賞校の中には、地域の川の環境調査を通し、美しい川や地域の自然環境を守るため、自分たちができる活動を考え実行している小学校や、海浜や海中清掃でゴミを回収・分別したうえ、プラスチックやガラスをアクセサリ等にアップサイクルして販売することで、海洋ゴミ問題について啓発を行っている高校など、環境に関する取組が多くありました。

今後も、持続可能な開発目標（SDGs）達成に関連する地域課題解決に向けた児童生徒の取組を推進していきます。



表彰式



川の環境調査

静岡県が静岡大学と「地域脱炭素の推進」に関する連携協定を締結



県内における脱炭素を効果的に推進するため、静岡大学と本県とで、令和5年3月16日に、「地域脱炭素の推進」に関する連携協定を締結しました。同日、県庁



連携協定締結式の様子



「高校生カーボンニュートラル・ラボ」の様子

にて、知事と、静岡大学の日詰一幸学長とが協定書に署名し、今後、両者が連携して県内の脱炭素に取り組むことを表明しました。

協定後初の取組として、連携事項のひとつである「地域脱炭素の実現に貢献する人材育成」のため、大学生の伴走支援のもと、高校生が脱炭素につながる企画を提案する「高校生カーボンニュートラル・ラボ」事業を進めています。